

不法投棄を懸念 環境と両立可能

弥富相生山線に住民賛否

名古屋市の河村たかし市長が建設を凍結している市道「弥富相生山線」（天白区、892㍍）について住民の意見の聞き取り調査が11日、天白区役所であった。調査は諸団体のメンバーと

地元住民の2回に分けて行われ、河村市長は「納税者が負担してもらえないような結論にしていけないといけない」と述べた。調査は今年4月以降、河村市長らでつくる検討委員

会で議論を重ね、実施を決めた。この日は市が建設の



天白区役所で実施された調査

経緯や周辺の交通状況などを説明後、意見を聞いた。諸団体の調査には、道路建設に関して市に要望活動などを行っている4団体約100人が参加。「建設を続行すれば、交通量や不法投棄が増える懸念がある」「ホタルが生息する現場を次世代に残していくべき」などと工事中止の意見が大勢を占めた。

一方、4学区の民生委員

や区政協力委員らの代表者など約70人が参加した地元住民への調査では、「環境に配慮した道作りを進めればホタルも共存可能」「開発と環境保全を両立した道路としてアピールできる」など建設再開を望む声が多数あった。

河村市長は今回の結果を踏まえた上で、建設の是非について年内には結論を出したいとしている。